

2020年12月13日(日)

主 題：「暗い世界に輝く光を見よ」(short)

—ひ か り—

テキスト：ヨハネの福音書1章9-13節

はじめに**ヨハネ1章、9節****1:9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。**

- ・ 聖書が語る光とは、初めから存在し、現在も存在し、そしてこれからも存在する「まことの光」のことです。今日、第3アドベント聖日を迎えています。私たちはその「まことの光」について考えたいと思います。 2点

大切なポイント**1. 世界が追いかける光**

- ・ 先日、こんな話を聞きました。ある日本人が、かつてにタイ国に住んでいました。その時、山々に囲まれた地域へ行くと、まだ電気がない村がめずらしくありませんでした。村では、家にある1つの小さなともしびの下で、家族そろって早めの夕食を食べていました。それから翌日の生活に備え、静か眠りにつくのが日常生活でした。電気製品がないので、小さな灯（あかり）だけが頼りでした。
- ・ それから彼は、再びタイ国を訪問しました。すると現在のタイ国は違っていました。タイの山奥の村々にまで電気が通じるようになりました。電気が生活に入ってくると、人々の生活は一変しました。長い電柱を搬入するため、まず道路が整備されました。家には蛍光灯が付き、テレビが入ってきました。しかもパラボラ・アンテナで、衛星放送が受信でき、DVDも見られるテレビが入って来ました。世界中の出来事を毎日試聴もできるとともに、耐久消費財（電気製品、家具、乗用車等）の豊かな暮らしを描く宣伝も、目に飛び込んできました。
- ・ 道路は良くなり、街へも行きやすくなりました。体力がある大人は、現金収入を求めて出稼ぎに出るようになりました。親は経済的に無理してでも、子どもたちによりよい就職につかせるため、町の学校へ通わせるようになりました。多くの人々が仕事を求め、街へ街へと出て行きました。村には高齢者と幼児だけが残り、しだいに過疎化していきました。それまでの地域共同体は崩れ、村は一気に廃れていきました。
- ・ 皆さん！ すべては豊かな暮らしのためでした。つまり輝く耐久消費財に囲まれた生活を手にするためでした。この流れは今や1国だけでなく、世界各地で起こっている現象です。これが今の時代です。
- ・ 私たちは次々に伝わってくる新情報に接しながら、生活の根本的なことはあまり変わっていないのではないのでしょうか。人は「少しでも豊かになりたい!」、「どうしたら豊かにな

れるのか?」、と思索しています。

- 豊かさを求めて、平和を願う気持ちとは正反対のように、暗い現実が存在しています。ニュースは今や一瞬にして、世界中をかけめぐり時代です。恐ろしい犯罪や、信じられないような事件、地域戦争、そしてテロ事件が続いています。
- そのような社会で、不満、不安、対立、緊張、憎悪、苦しみが充満しています。人は少しでも、豊かな暮らしを手に入れようと願っています。さらに豊かな暮らしを得るため、手段を選ばない不正や悪が横行しています。たいへん危険な社会、時代となりました。
- 人類はこれまで、光を求め、恩恵を得ようと、終わりのない争奪戦を繰り返してきました。それが世界が追いかけてきた光です。では、「まことの光」は、どこにあるのでしょうか？ 聖書はこう答えています。

2. 天来の「まことの光」が来られた

- 「まことの光」とは、人間が作り上げた光ではありません。それは天から来られた『まことの光』です。 **ヨハネ福音書**：
 - 1:9 **すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。**
 - 1:10 **この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。**
- **イエス・キリストは「まことの光」です**
約2千年前、イエス・キリストは家畜小屋に生まれました。その誕生は、吹けば消えそうな「小さなともしび」のような光でした。その「光」を消そうとした人々が現れました。聖書はその姿を克明に証言しています。
- その「小さなともしび」が放つ光こそ、暗やみの社会にいる人々を照らす光です。では、イエス・キリストとはどんなお方でしょうか。

1) 「まことの光」は創造神です

- 1:10 **このお方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られた**
- 「世」とはギリシャ語で「コスモス」、本来「秩序ある世界」を意味するが、ここでは罪に汚れた世界と人々を指して用いられている。この世は現在、無秩序と混乱が支配している。私たちは、この社会で働き働いている。
- 1:11 **この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。**

2) 「まことの光」は光の源です

- ギリシャ語には、光という単語は2種類あります。
 - “phos” (フォス) : 光の源、発光源 ⇒ イエス・キリスト
ヨハネ福音書 8:12
 - “phengos” (フェンゴス) ・単なる光、ともしび (反射光)
ルカ福音書 11:33

3) 「まことの光」は祝福を与える

- ・神のマスタープランは、結論として、「まことの光」を通し祝福を与えることです。では、どんな祝福でしょうか？ それは次の祝福です。

⇒ **神の子とされる特権**

1:12 **しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**

「その名を信じた」とは、「全幅の信頼を寄せた」という意味です。

- ・神の子とされる特権、それは人間には不可能なことです。
皆さん。子の特権のひとつは、⇒相続です。
子は子であるという立場（特権）から、何も努力せずに相続の権利があります。
- ・同じように、神の子にも天の御国を相続する権利が与えられます。
神の子となる特権は、血統でなく、修行、鍛錬でなく、あるいは他人の意欲によるものでもありません。⇒ ただ「神によって生まれる」のです。
暗い世の中でも「まことの光」によって、新しくされる道が開かれました。⇒100%、神の恵みです。キリスト・イエスを信じるだけで与えられる、神の恵みです。

- ・今年のカリスマス、「まことの光」を見る機会とさせていただきます。

どうすれば？ ⇒イエス・キリストを迎えること

ま と め

主 題：「暗い世界に輝く光を見よ」

— ひ か り —

すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。

ヨハネ 1:9

1:12 **しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**

- 私たちに与えられた特権は：

1. 創造神の子とされる
2. 神の国の相続人とされる

* God bless you!